



馬耳東風

「よくやったなあ！ すっごいことだ！」都内の動物病院が小笠原で野生化したネコを受け入れた。女性看護師さんが実に根気よくトレーニングにあたった。ついに順化し、飼いネコ化して肩乗りするシーンを紹介したのだ。先年関獣連大会がタワーホール船堀で開催され、シンポジウム「小笠原の希少動物を守る—私たちにできる小笠原の野生生物保護—」が注目された。小笠原は立地から固有種が多く、カタツムリ類94%、樹木やシダの類36%、昆虫の類が27%もある。オガサワラオオコウモリ、アカガシラカラスバトなどの希少種も多く「進化の実験場」と呼ばれている。母島に生息する固有種で天然記念物のメグロの保護を目的に「ネコの捕獲・不妊化」が開始された。オガサワラオオコウモリ救護用物資の緊急支援も行われた。アカガシラカラスバトなどの希少動物を守るために「サンクチュアリ内、海鳥繁殖保護柵内に侵入し野生化したネコを捕獲し、都内の動物診療施設において順化し、飼いネコとして新しい生活を始めさせる活動」によって完全排除に成功した。そうした努力の成果を踏まえて、本年6月めでたく待望の世界自然遺産に登録された。小笠原諸島は東京から千キロ離れた亜熱帯の島々で、屋久島、白神山地、知床について4件目となる。崇高な理念のもと東京都獣医師会が離島の巡回診療を始めてから23年が経過した。希少動物も人間も共存できる地域社会を目指した官民一体の協働の成果

と言える。都獣医師会が東洋のガラパゴスといわれる独自の生態系の維持に、野生動物対策専門委員会活動を通して動物医療団の派遣など、これからも一層のかかわりを深めて世界の自然遺産への貢献を期待したい。

さて日本の秋、それは紅葉に代表される。色鮮やかに化粧し身悶えするが如く輝き、やがて使命を自覚して落葉する。季節の移ろいの見事な演出だ。人々は日本人の待つ遺伝的感性をもって、自然界の息遣いを全身で感じとる。特に東北地方の景観は素晴らしい。あの東日本大震災や大津波の影は忍びないことだが、ようやく道筋が見えて来そうだ。新渡戸稲造は「爪先立ちで明日を考え、全力で努力する者は、遅かれ早かれ逆境から浮かびあがる」と述べている。今や放射能との闘いとなり、放射性セシウム汚染稲わらの給与が汚染牛肉問題の発端となった。手探りながら安全安心への取り組みが着々と進められている。東北地方に元気を！ とさまざまな手立てが取られているが、明るいニュースの一つは「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されたことだ。「仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」を構成する資産は、中尊寺・毛越寺・観自在王院跡・無量光院跡・金鶏山から成り、まさに東北の人々の篤い信仰に基づく文化財の拠点として位置づけられる。金色堂の輝きは、見る人の心を吸い込む浄土のように、東北に輝きあれと祈りの光だ。二つの世界遺産の誕生は、今や勇気と元気の象徴的存在である。

(柏)